

# 赤水の後半生、漫画に

## 年重ねて挑戦する姿 顕彰会 発行

高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝える長久保赤水顕彰会は、赤水の生涯を描いた漫画の単行本を発行した。同会理事で日立市の会社員、原康隆さん（47）が手掛けた。新作は後半生にスポットを当て、原さんは「年を取ってからもチャレンジをできることが伝われば」と話している。

える「侍講」に61歳で登用された後の活躍に焦点を絞り、尊王家の高山彦九郎や水戸藩の儒学者である立原翠軒、藤田幽谷などとの交流も描いている。

原さんは幼少期から漫画を描くのが好きで、高萩市教育委員会が1995年に募集した赤水の漫画に応募したのを機に、同会の活動に関わっている。

赤水が学者仲間らとやりとりした手紙「書簡」などの資料を読み込み、登場人物が当時どのようなことを考えていたか想像しながら物語を組み立てたという。江戸時代の政治情勢も盛り込まれており、原さんは「歴史が好きな人にも読んでもらえるよう史実に近いように描いた」と話す。

### 日立の原さん新作

原さんは「道知るべ 續」では幼少期からの成長を描き、全272頁、550円。原さんが1年以上かけ完成した新作の漫画150頁に加

え、2018年に発行した前作100頁を収録した。赤水は農家出身ながらさまざまな学問に精通し、1779年には日本地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」を完成させた。前作では幼少期からの成長を描き、全272頁、550円。原さんが1年以上かけ完成した新作の漫画150頁に加

新作は赤水が水戸藩6代藩主、徳川治保に学問を教



長久保赤水の新作漫画を描き上げた原康隆さん＝日立市幸町

同顕彰会は、漫画を読んだ感想文を3月31日まで募集している。原稿用紙800字以内で、最優秀賞に賞金10万円、優秀賞10点に記念品を贈る。漫画の購入に関する問い合わせは同会の佐川春久会長 ☎090(1846)6849。